

平成 29 年 8 月 18 日

各 位

株式会社 みなと銀行  
淡陽信用組合  
みなとキャピタル 株式会社

### 「ひょうご 6 次産業化ファンド」による投資先決定について

みなと銀行（頭取 服部 博明）グループ及び、淡陽信用組合（理事長 山本 英博）が株式会社 農林漁業成長産業化支援機構（A-F I V E）と共同で設立した「ひょうご 6 次産業化ファンド 投資事業有限責任組合」は、株式会社 ドメーヌレゾン（以下、当社）への投資を決定しましたのでお知らせします。

当社は、ワイナリーやレストラン、ホテル等を運営するレゾングループ（本社：尼崎市）の一社として、北海道中富良野町でワインを醸造するために、平成 29 年 6 月に設立された 6 次産業化事業体（※）です。

今後当地において、原料のブドウをグループのレゾン（農地所有適格法人）の現地圃場や周辺農家から調達し、地域の自然環境を活かした日本ワインを生産する予定です。（裏面ご参照）

（※）6 次産業化事業体とは、農林漁業者（1 次産業者）が主体となって、2 次・3 次事業者と合併で設立する法人で、加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業創出等に取組む事業体のこと。

このたびの事業は、醸造用ブドウの栽培適地である北海道に、同グループが新たにワインの製造拠点を設けるものです。当ファンドでは、本取組がグループの事業拡大とともに、周辺の自治体や、地元農家等の 1 次事業者との連携を通じて、農産物のブランド力や生産者の所得向上、地域の雇用拡大にも寄与することから投資を決定いたしました。

尚資金は、ワイナリー工場の建設費用（総額 5 億円程度）の一部に充当されるもので、当社は、平成 30 年 8 月頃に建設に着手した後、翌年 10 月には初醸造を行い、5 年後に売上高 2 億円程度を確保する見込みです。

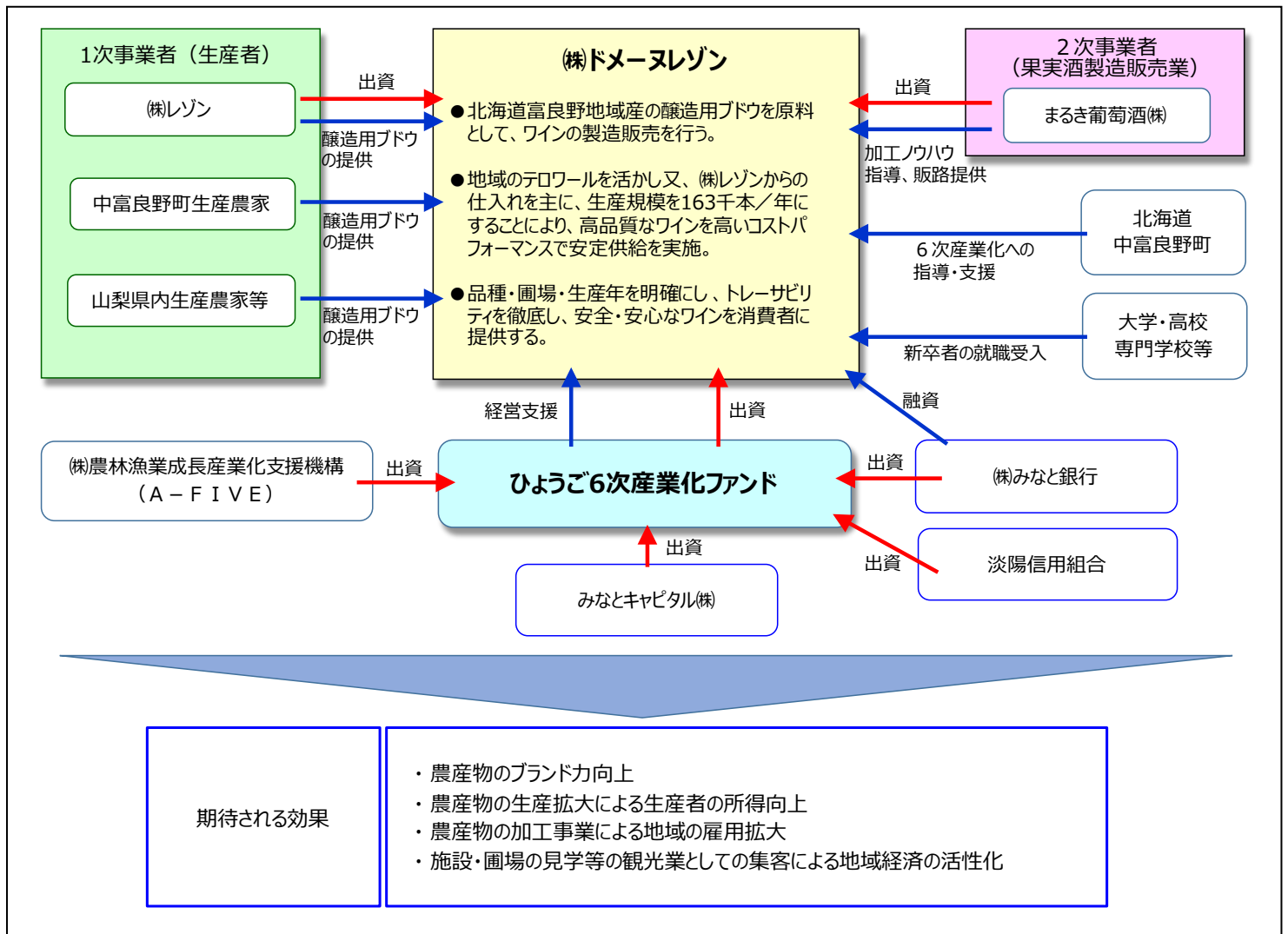
ひょうご 6 次産業化ファンドは、今後とも、地域の 6 次産業化事業体への出資等を通じて、国内農産物のブランド力向上や、地域経済の活性化に取組んでまいります。

#### 【投資案件の概要】

投資先	株式会社 ドメーヌレゾン 代表者 清川 浩志
所在地	北海道空知郡中富良野町南町 7 番 7 号
業 種	果実酒葡萄酒の製造販売
投 資 概 略	○金額 50 百万円 ○形態 普通株式および無議決権株式の引受 ○投資事業 北海道、山梨県、群馬県、長野県で醸造用ぶどうを栽培している(株)レゾン（農地所有適格法人）と山梨県でワインを醸造している、まるき葡萄酒(株)が連携し、北海道中富良野町でワイナリーを運営し、日本産ワインの製造販売を行う。

本件に関するお問い合わせ先  
企画部 広報室 藤井 TEL:078-333-3247

【参考①：投資案件スキーム図】



【参考②：「ひょうご6次産業化ファンド」の概要】

名 称	ひょうご6次産業化ファンド投資事業有限責任組合
設 立 日	平成26年1月1日（水）
ファンド総額	10億円
存 続 期 間	15年
出 資 者	株式会社みなと銀行 : 4.8億円 淡陽信用組合 : 0.1億円 株式会社農林漁業成長産業化支援機構 : 5.0億円 みなとキャピタル株式会社 : 0.1億円
投 資 対 象	農林漁業者（1次産業者）と2次、3次産業の事業者（パートナー企業）が共同で設立する6次産業化事業体
ファンド運営会社	みなとキャピタル株式会社

以 上